

地方中小都市のインフラを活かした電気自動車の開発構想

小泉真也

●要約

筆者は、2011年度末より超小型電気自動車（キャブスクーター）の開発を進めている。その背景として、もはや不変的といえる電気自動車の問題がある。電気自動車は長い歴史を持ちながら、費用と航続距離の問題に対して決定的な進化を遂げるには至っておらず、これまで幾度となく普及の興起を逸してきた。現在は、環境問題や技術の発展によって、新たな電気自動車の興起を迎えており、その潮流はこれまでにない現実的なものである。しかしながら、たびたび興起を逸したことは、電気自動車の便益に関わるインフラの不足に影響を与えており、特に稚内市のような小規模の自治体であるほどその影響は大きいと言える。

筆者の構想する電気自動車は、近距離輸送の利用形態に適応したものであり、給電インフラの問題を小型原動機による発電で補い、生産・販売・維持そして燃料供給網として都市のインフラをそのまま活用するものとして提案する。

●キーワード

電気自動車

環境問題

ビッグ・スリーとスモール・ハンドレッド